

【第一句集シリーズノ1】

野に遊ぶ

住田千代子句集

NONIASOBU
Sumida Chiyoko

畦焼きの火を追うて風走りけり

この句集は今までの生き方の確認であり、未来への生き方を示唆しているのである。

序・山田六甲

葱刻み泣きの涙を
ごまかせり

病む夫をなぐさめんと
て野に遊ぶ

亡き夫はさみ娘と
寝る夜の短か

娘と歩の合ふバージンロード秋日和

夫逝きし日にて止まれり古曆

羅の風が縞目を乱しけり

賽銭箱響いて虻の捻り出づ

雪吊を仰ぐに傘をすぼめけり

子の目玉とび出しゐたる金魚鉢

折れ口を合はせみてをり蓮根掘

鯛焼きの向きの異なる一尾かな

次の実を目で追うてをり袋掛

台風に鍋を磨いて過しけり

扇風機嬰来る度に仕舞はるる

麦茶出す手に揺れてゐる数珠の房

雨粒に塞がれてゐる網戸かな

死す蟬を腕白順に拝みけり

手拍子のつひに揃はず盆踊り

曇る日はくもりの色の春障子

料峭やこつと響ける靴の音

ゆつくりと溶かす漢方花疲れ

やはらかく肌刺す風や麦の秋

虫干の色柄どれも母好み

あさがほを破りしほどの雨上がる

ひとつ垂る植ゑし覚えのなき糸瓜

秋霖や介護に暮れる友をふと

仏生会門といふ門開けてあり

残り福めでたく餅を拾ひけり

畦焼きの火を追うて風走りけり

花好きな母似の手つき菊根分

秋刀魚焼く潮騒めける音したり

散り敷きてそばろの如し金木屋

娘の恋のいつしか消えぬしやぼん玉

水郷に時のゆつたり船遊び

検査良しと出でたる夫のビール飲む

障子貼るずれる眼鏡を気にしつつ

病む夫の寢息確かむ凍つる夜半

みな反れり縄につながる干鰈

婚約の娘の懇ろに雛納む

三極の花を標に帰りけり

風光る婚約指輪嵌めし娘に

寝嵩なき夫の顔拭く寒き梅雨

夫送り娘を嫁にやり夜の長し

今落ちし乙女椿をそつと手に

亡き夫の病床日記夜のおぼろ

盆用意遺影の夫も手を出しさう

カーナビの言ひ成りに行く恵方道

紙婚の夫婦見せ合ふ初神籤

張りぼての鬘の光る村芝居

子は袂濡らしつ雛を流しけり

著者経歴

住田千代子 (すみだ・ちよこ)

昭和26年 広島県生まれ

平成16年 「演」入会、松崎鉄之助に師事

平成24年 演賞受賞、「演」二集同人

平成25年 八月号にて「演」終刊

八月号より「六花」入会、山田六甲
に師事

平成27年 「六花」雪樹集同人

野に遊ぶ のにあそぶ

二〇一八年二月二十五日 初版発行

著者 住田千代子
発行所 ふうんす堂

〒161-0001

東京都豊台3丁目1-1513八上1F

電話 03(313)51906

FAX 03(313)51919

URL <http://www.fundoo.com>

E-mail info@fundoo.com

TEL 03(313)51906

山岡啓美子

装幀 紅 兎

印刷所 日本ハイコム株

製本所 日本ハイコム株

定価 本体一七〇円＋税

ISBN473141286-0092 ¥1700

電子・落丁本はお取替えないです。



第一句集シリーズ